

日本語学習者のための 50 音表 II

はじめに

前回は、豊川市国際交流教会（以後当協会と略す）で日本語を学ぶ学習者の多い順に、ブラジル式ポルトガル語、インドネシア語、ベトナム語、それに南米式スペイン語、英語を加えた 5 か国語の 50 音表を作成した。

今回は、その次に多いネパール語、中国語。そして、現在担当している学習者の母語であるミャンマー語に関して作成した。（フィリピン人の学習者も多かったが、フィリピンは英語が公用語のため、フィリピン語（タガログ語）の作成は見送った。）

前回作成した 50 音表は、いずれもアルファベットを用いたものであったが、今回の 3 か国語は、いずれも「アルファベットではない独自の文字」であるという点が特徴である。

中国語に関しては、ピン音（ピンイン）を用いて発音を表記することを試みた。ピン音は、漢字の読み方をアルファベットで示した発音記号であり、台湾を除く中国本土で使われている。

また、日本語学習者に直接役立つものではないが、今回の調査の中で分かったことを、いくつか【付録】として記載した。

【付録 1】漢字は言語学上の分類として、長年「表意文字」と言われていたが、近年は「表語文字」として分類されていることがわかった。

【付録 2、3】ミャンマー人の日本語学習者との関わりや、また、ミャンマー語を調べていく中で分かったことの一部を（曜日の考え方、名前等）を記載した。

【付録 4】ネパール語との関連から、「梵字」の 50 音表を記載した。

【付録 5】ヒエログリフ（古代エジプト象形文字）の 50 音表を添付した。

※【付録 4、5】に関しては、遊び心もあって記載したものである。昨年（2025 年）の当協会主催のワールドフェスティバルでは、アラビア文字で名前をかくというイベントを行っており、こういったイベントで活用いただければ幸いである。

目次

1. 調査方法と出典	3
2. ネパール語を母語とする人のための50音表	4
3. 中国語を母語とする人のための50音表	5
4. ミャンマー語を母語とする人のための50音表	7
5. 終わりに	9
【付録1】文字の言語学的分類 漢字は表意文字か？	10
【付録2】世界各国の曜日の呼び方	11
【付録3】ミャンマー人の名前の特徴と支配星	12
【付録4】50音表と梵字、デーヴァナーガリー文字の関係	15
【付録5】ヒエログリフ（古代エジプト象形文字）による50音表	17

1. 調査方法と出典

出典一覧を表1に示す。

前回同様、まず、ネット上で調査を行い、最終的にその国の言語を母語とする日本語学習者または当協会の関係者に確認を行った。

ネパール語とミャンマー語に関しては、「世界の文字で遊ぼう」というサイトを見つけたことが大きい。このサイトは、世界中の文字に関して説明がなされており、50音表も記載されている。

中国語は、筆者自身が勉強した経験があり、多少の知識があったため、その知識も活用したが、日本語学習者の意見が大きい。

付録に記載した梵字の50音表とヒエログリフ（古代エジプト象形文字）の信頼性に関しては保証外と考えていただきたい。

表1 出典一覧

	言語	出典（参考URL,図書）	URL
1	ネパール語(デーヴァナーガリ文字)	・世界の文字で遊ぼう/世界の文字で50音図05/デーヴァナーガリ文字で五十音図	https://uenosato.net/moji/skm/utf8jo/utf8jo_05dvn.html
2	中国語	ピンイン表 アクセス中日・日中辞典（参修社）	http://www.sora-as.jp/pinyin/pinyin.html
3	ミャンマー語	・世界の文字で遊ぼう/世界の文字で50音図3/ビルマ文字で五十音図	https://uenosato.net/moji/skm/gjo/gjo_03a.html
		「ミャンマー語話者に教える 日本語教師読本35」 webjapanese.com 22-25	
付録1	文字の言語学的分類 漢字は表意文字か？	「漢字は表意文字」と教えるのは正しいのか【隙間リサーチ】	https://trtmfile.com/2019/04/26/rsch-6/
付録2	世界各国の曜日の言い方	Google検索（AIによる概要等）	
付録3	ミャンマー人の名前の特徴と支配星	八曜日と名前。ミャンマーネームを考えよう！	https://scshd-global.hatenablog.com/entry/2021/01/15/220000
		ミャンマー人の名前に苗字はない？曜日・男女別の特徴から有名人の名前まで徹底解説！	https://noguchishuzo.jp/myanmar-name/
		ミャンマーってどんなところ？> 伝統暦「八曜日」	http://yjahp.e7.valueserver.jp/1011.seikatsu/03.4.youbi.urandai.1.pdf
		何曜日に生まれたの？ミャンマー発祥「八曜日占い」で知るあなたの守護獣と守護石	https://malulani.info/column/fortune/41403.html?srsid=AfmBOogbCHbwEZVehU6wTsFPv800kb7z3GEIvqPInqgFSIEJ1xtAthe
		ミャンマー人の名前	https://myanmaradays.com/name/
付録4	50音表と梵字、デーヴァナーガリ文字の関係	梵字（ぼんじ） 歴史・意味・種類とそのパワーとは	https://www.kenkengems.com/apps/note/bo_nji/
		風刻工房/WEB STORE/梵字の選び方	https://fukoku-kobo.net/html/page1.html?srsid=AfmBOoo24ib-dkD9g-412LDUTv3qKkb8DmUyLXke3EqOYfGXgJLbXjIF
付録5	ヒエログリフ（古代エジプト象形文字）による表記	・世界の文字で遊ぼう/世界の文字で50音図16/ヒエログリフで五十音図	https://doi.org/10.15084/00001600

2. ネパール語を母語とする人のための50音表

ネパール語は、デーヴァナーガリー文字を用いて表記されている。デーヴァナーガリー文字は、ネパール語の他、インドのヒンディー語やサンスクリット語などにも用いられている文字である。

サンスクリット語は古代インドの言語であるが、わが国には、仏教（密教）の経典「梵語」として伝わった。

日本語の50音表は、平安時代中期頃、明覚上人により密教の僧侶が仏典を学ぶために研究した梵語（サンスクリット語）の学習資料や、漢字の音を学ぶための中国の「反切」法に影響を受け、日本語の音を体系的に整理するために作られたのが始まりである。そういう点で、日本語50音表とネパール語とのつながりは深い。

また、ネパール語の文法は、日本語と非常に似ており、主語・目的語・述語の語順、および尊敬語の存在が共通点として挙げられ、ネパール人は日本語を習得しやすいとされている。

表2 ネパール語（デーヴァナーガリー文字）による50音表

清音					濁音					
あ	い	う	え	お						
अ	इ	उ	ए	ओ						
か	き	く	け	こ	が	ぎ	ぐ	げ	ご	
का	कि	कु	के	को	गा	गि	गु	गे	गो	
さ	し	す	せ	そ	ざ	じ	ず	ぜ	ぞ	
सा	सि	सु	से	सो	जा	जि	जु	जे	जो	
た	ち	つ	て	と	だ	ぢ	づ	で	ど	
ता	चि	चु	ते	तो	दा	जि	जु	दे	दो	
な	に	ぬ	ね	の						
ना	नि	नु	ने	नो						
は	ひ	ふ	へ	ほ	ば	び	ぶ	べ	ぼ	
हा	हि	फु	हे	हो	बा	बि	बु	बे	बो	
ま	み	む	め	も						
मा	मि	मु	मे	मो						
や		ゆ		よ	ば	び	ぶ	べ	ぼ	
या		यु		यो	पा	पि	पु	पे	पो	
ら	り	る	れ	ろ						
रा	रि	रु	रे	रो						
わ				を						
वा				ओ						
ん										
न्										

中国語を母語とする人のための50音表

中国語では、発音を表わすのにピン音が広く用いられており、今回、50音表の発音を表現するのに漢字とピン音を用いて現した。その結果を表3に示す。表中、黄色の部分には、該当する発音がない箇所であり、約三分の一以上が該当無しとなった。つまり、中国語の発音には、「日本語の三分の一以上の発音が無い」ということである。特に母音の「え」に該当する音が（近い音も）無いという結果である。

中国語を母語とする日本語学習者に聞いたが、日本語を学習する際は、最初に日本語の母音「あいうえお」の発音を学習（発音が異なることを理解）し、それから50音表を学習する方がよいようである。逆に、この50音表を見ることによって、「日本語の発音は、中国語にない発音が多い」ということを理解する手助けとなるかと考える。尚、表中、できる限り第一声の漢字を用いたが、用いることができなかった箇所もある。その箇所は薄い青色で示した。

表3 中国語（漢字とピン音）による表記

清音					濁音				
あ	い	う	え	お					
阿	一	乌		哦					
a	yi	wu		o					
か	き	く	け	こ	が	ぎ	ぐ	げ	ご
咖		哭			咖		姑		
ka		ku			ga		gu		
さ	し	す	せ	そ	ざ	じ	ず	ぜ	ぞ
撒	西	私			扎	鸡	祖		
sa	xi	si			za	ji	zu		
た	ち	つ	て	と	だ			で	ど
他	七	刺			搭				
ta	qi	ci			da				
な	に	ぬ	ね	の					
那	尼	奴							
na	ni	nu							
は	ひ	ふ	へ	ほ	ば	び	ぶ	べ	ぼ
哈		夫			八	逼	不		波
ha		fu			ba	bi	bu		bo
ま	み	む	め	も					
妈	咪	木		摸					
ma	mi	mu		mo					
や		ゆ		よ	ぱ	ぴ	ぷ	ぺ	ぽ
压					趴	批	扑		坡
ya					pa	pi	pu		po
ら	り	る	れ	ろ					
拉	离	卢							
la	li	lu							
わ									
蛙									
wa									
ん									

- 注1) は、該当する発音がない。
 注2) は、一声の漢字ではないところ。

(1) 「xi」「shi」「si」の発音

「xi」：舌尖を下の歯の裏につけて、息を舌面と硬口蓋で強く摩擦させながら、「シート」のときの「シ」で発音する。

「shi」：標準語（北京語）では、そり舌音で、舌を反らせたまま「ス」と「シ」の中間の発音。（ただし、南方の方言では、「shi」の発音は、舌を巻かずに「su」（ス）に近い音になる。）

「si」：舌尖を下の歯の裏に近づけ、舌と上の歯の隙間から息を出すようにして、摩擦させながら「ス」に近い音を発音。

したがって、「し」は「xi」、「す」は「si」を採用した。

(2) 「ち」の発音

「ti」：「ティ」に近い発音。「qi」は、日本語の「チ」よりも強く息を吐き出す「有気音」であるが、これが最も近いと判断した。

(3) 「つ」の発音

「ci」：口を横に引いて、舌尖は前歯の裏に近づけて、息を強く出す有気音。

「tu」：日本語の「トゥ」に近い音となる。

結果、「ci」を採用した。

(4) 「ゆ」の発音

「yu」は、日本語の「イ」に近い音となり、「ゆ」に相当する発音は無い。

(5) 母音「え」の発音

中国語の「e」の発音は、日本語の「ア」と「オ」の間のような音で、日本語の「え」とは発音が異なるため、すべて該当無しとした。

(6) 母音「お」

「こ、そ、と、の、も、よ、ろ」は「kuo、suo、tuo、nuo、huo、luo」や「kou、sou、tou、nou、mou、you、lou」を充てることも考えられるが、「お、も、ぼ、ぽ」＝「o、mo、bo、po」以外は該当無しとした。

ミャンマー語を母語とする人のための 50 音表

ミャンマー文字は、11 世紀頃、ミャンマーに住むモン族が使用していたモン文字が改変され、ミャンマー語を表記するために使われるようになった。

その主な特徴は、次の 2 点である。

- ① 全体的に丸みを帯びた曲線的な形であること。

その丸い形は、かつてヤシの葉に文字を書いていた際、葉が裂けるのを防ぐため直線を使うのを避けたことが由来とされている。

- ② 子音を表す基本字母の周囲に母音記号や声調記号が組み合わさって音節を形成すること。

ミャンマー語と日本語は、文の語順が同じ「主語＋目的語＋動詞（SOV 型）」であり、また、助詞を使って文の意味を明確にする文法構造であることなど、日本語と似通っている点が多く、ミャンマー人は、日本語を習得しやすい傾向があるといわれている。

ミャンマー人が日本語の発音を学ぶ際、次の点で苦労するようである。

- ① 「あ段＋ん」が「え段＋ん」に近い発音となる。

後に「ん」が来ないケースは「あ」と聞こえるが、「ん」と結びつくと「あ段」は、「あ」と「え」の間のような発音になるように感じられる。

これは、音節の体系に「あん」に相当する発音がないため、最も近い「えん」と発音してしまう、また「あ段」と「え段」の区別が日本語ほど明確でないことなどによると思われる。

- ② 「長音」「促音」

例えば、「おおきい」→「おきい」となる。或いは「とっき」→「とき」となってしまう傾向がある。

これは、言語の発音体系が日本語は「モーラ」（かな 1 文字）が単位であるのに対し、ミャンマー語は「音節」を発音の単位としてとらえているからである。つまり、「おおきい」は「お」「お」「き」「い」の 4 モーラ、「とっき」は、「と」「っ」「き」の 3 モーラであるが、ミャンマー人は「おお」「き」「い」は 3 音節、或いは「とっき」は、「とっ」「き」の 2 音節ととらえてしまうため、こういう傾向が出てしまう。

- ③ 「つ」の発音

「つ」の発音はミャンマー語にはない。そのため、「つ」の発音は、「ス」、「チュ」

「トゥ」といった発音になる傾向があり、表記法もいろいろな案があったが、最終的に表の表記方を採用した。

表4 ミャンマー文字による50音表

清音						濁音					
		◦	◡	◣	◦ ◡			◦	◡	◣	◦ ◡
	あ	い	う	え	お						
အ	အ	အိ	အု	အဲ	အို						
	か	き	く	け	こ		ဂ	ギ	ク	ゲ	コ
က	က	ကိ	ကု	ကဲ	ကို		ဂ	ဂိ	ဂု	ဂဲ	ဂို
	さ	し	す	せ	そ		ဇ	ジ	ズ	ゼ	ゾ
စ	ဆ	ဆိ	ဆု	ဆဲ	ဆို		ဇ	ဇိ	ဇု	ဇဲ	ဇို
	た	ち	つ	て	と		တ	တိ	တု	တဲ	တို
တ	တ	တိ	တု	တဲ	တို		တ	တိ	တု	တဲ	တို
	な	に	ぬ	ね	の						
န	န	နိ	နု	နဲ	နို						
	は	ひ	ふ	へ	ほ		ပ	ပိ	ပု	ပဲ	ပို
ပ	ပ	ပိ	ပု	ပဲ	ပို		ပ	ပိ	ပု	ပဲ	ပို
	ま	み	む	め	も						
မ	မ	မိ	မု	မဲ	မို		ပ	ပိ	ပု	ပဲ	ပို
	や		ゆ		よ						
ယ	ယ		ယု		ယို						
	ら	り	る	れ	ろ						
လ	လ	လိ	လု	လဲ	လို						
	わ				を						
ဝ	ဝ										
	ん										
	န										

終わりに

今回の調査は、対象となる言語がアルファベットを用いていないということで、難攻が予想されたが、「世界の文字で遊ぼう」というサイトを見つけられたことが大きく、意外にスムーズに進めることができた。

想定外に難攻したのが中国語である。私はかつて大学で第二外国語として、また、仕事の関係で中国語を学んだことがあったが、「日本語に有って中国語にはない発音」がこれほど多くあることに気がついていなかった。おそらく、中国人が日本語を勉強する際、これらの発音に苦労するのではないだろうか。

今まで、日本語を教える際には、「意味が通じればよい」と考え、発音はあまり重要視して来なかったが、今回の調査を通して、国によって発音に大きな違いがあることを改めて認識した。ただし、「訛り」は、同一国内でもあるものであり、あまり気にすることなく、「どんどんしゃべることが大事である」という認識に変わりはない。

また、曜日は、元来、惑星に基づいて定められたものである点も今回の調査の中で知ったことである。これは、ミャンマー語の曜日が日本語と同じように惑星の名前で呼ばれている事から調べていく中で分かったことである。英語や中国語では、原形をとどめていないために気がつかなかったので、付録としてまとめてみた。

そして、ミャンマーでは曜日に付随して守護動物がいるが、これは日本の干支に相当するようと思われる。

梵字では、干支毎に守護仏が存在することなどもわかり、ミャンマー、ネパール等、アジアの仏教圏によるつながりが深いこともわかった。

「世界の文字で遊ぼう」には、様々な世界中の文字が記載されており、アメリカのSFテレビドラマ「スタートレック」で登場したクリンゴン文字までのっている。興味のある方は、ぜひ一度覗いてみることをお勧めする。

最後に、50音表を確認して下さった日本語学習者と当協会の関係者の方、そして、このような調査結果を公表する場を設けて下さった当、豊川市国際交流協会に深く感謝を申し上げます。

【付録1】文字の言語学的分類 漢字は表意文字か？

漢字は、従来、意味を表わす「表意文字」であると言われてきた。しかしながら、近年(2000年以降)、「表語文字」という分類でカテゴライズされるようになった。

言語学的な文字の分類を表5に示す。

表5 文字の言語学的分類

従来の分類	近年の分類 文字があらわす単位によって分類	説明		文字の種類代表例	具体例	発音が複数ある例
表音文字(音を表わす文字)	音素文字	1つの文字が1つの音素を表わす	音素とは音の最小単位のこと(音は1種類とは限らない)	ラテン文字 (アルファベット)	h, a	英語における「a」の発音 ə, eɪ, æ, a:/ɑːr, ɔːの5種類ある
	音節文字	1つの文字が1つの音節を表わす	音節とは発音のまとまりのこと。例えば「は」は「h」と「a」の二つの音素からなり、音を表わす	ひらがな カタカナ	は、ハ	「私は」の「は」の助詞として使われる場合、発音は「wa」
表意文字 (意味を表わす文字)	表語文字	特定の言語に於いて、1つの文字が1つの語を表わす	語とは、特定の言語に於いて、文を構成する要素の中でそれ自体で意味を持ち、切り離して使うことができる最小のまとまり。	漢字	歯、葉	「歯」の発音 日本語「ha」「shi」 中国語「chi」
	表意文字	特定の言語に依存せず、1文字で意味だけを表わす(発音との結びつきが弱い)	意味は1つ。音は複数。例えば、「1」の音は、「いち」であったり「one」であったりする。	アラビア数字 数字記号	1、2 ∞、=	「1」の発音 日本語「ichi」 中国語「yi」 英語「one」

近年の分類では、文字を「音を表わす」のか、「意味を表わす」のかで分類するのではなく、1つの文字がことばのどの要素(音素、音節、語)まで表わすのかで分類されている。この分類では、「表意文字」は、世界共通で認識されるような、数字や記号、絵文字(ピクトグラム)に限られ、漢字は表意文字の仲間からはずれ、「表語文字」という分類にくくられるようになった。

漢字の表音文字的性質と複数ある発音

また、漢字に対し、意味と関係なく音を当てている例も中国語、日本語ともに外来語で見られる。中国語では、「coffeeを咖啡(kāfēi)、オリンピックを奧林匹克(Àolínpìkè)」などである。日本語においても、明治時代の名残ではあるが、音を当てて漢字を使用している例は今も残っている。coffeeを咖啡、フランスを仏国などである。こういう特殊な例を日本語では、「当て字」というカテゴリに分類している。

また、中国語においても、漢字の音は必ずしも一つではない。例えば、「樂(乐)」という漢字は、「lè(レ)」という発音と「yuè(ユエ)」という発音の2種類ある。「lè(レ)」という発音「嬉しい、楽しい」という意味で、「yuè(ユエ)」という発音は「音楽」や「(楽しむ)」という意味で使われ、文脈や単語によって区別される。

【付録2】世界各国の曜日の言い方

曜日の由来は、古代バビロニアで考えられた「七曜（太陽・月・火星・水星・木星・金星・土星）」が基になっており、これが世界中に広まった。

日本への曜日の伝来は、平安時代初期に弘法大師（空海）が密教経典である『宿曜経』を中国から持ち帰ったことから始まり、当初は吉凶を占うためのものであった。しかし、その後、次第に貴族の間で使われるようになり、明治初期の太陽暦採用とともに、公的なものとして「七曜」が正式に採用された。

この七曜の習慣であるが、世界各国に伝わっていくうちに、さまざまに変化を遂げている。

英語の場合、太陽と月（Sunday & Monday）は残っているものの、他の曜日はローマ神話の神や北欧神話の神々に置き換わっている。Saturday はローマ神話の農耕神「サトゥルヌス」に、残りの曜日は、北欧神話の神々の名前に置き換えられており、例えば水星は、Mars であるが、北欧神話の主神である Woden（ウォーデン）に置き換え、その後現在の発音、表記 Wednesday に変化した。

ネパール語の場合は、それぞれの曜日に、サンスクリット語に由来する神話の惑星の神の名前がつけられている。

また、中国語では、月曜～土曜までは、星期一～星期六と数字を用いている。（日曜日は星期天）1909年以前は日本同様、惑星の名前を用いていたようであるが、1909年に当時の文部省にあたる機関が数字に置き換えたことにより、今の形となった。

ミャンマー語では、各曜日は惑星と関連づけられている。ただし、水曜日は午前と午後で別れ、午後には「ラーフ」という架空の星が当てられ、七曜ではなく、八曜となっている。次の章では、ミャンマー人の名前に関し、曜日との関わり合いを含め、もう少し詳しく述べる。

【付録3】 ミャンマー人の名前の特徴と支配星

1. ミャンマー人の名前には名字がない

ミャンマーは135の民族グループが存在するとされる多民族国家だが、そのうちビルマ族が人口の約7割を占める。そして、このうち、徳宏タイ族等を除く大部分のミャンマー人の名前は、名字（姓）がなく、名前のみで構成されている。ミャンマー人に名字（姓）がないのは「家」や「一族」を区別する系譜制の考え方がなく、双系制（父方と母方のどちらの血筋も問わない）の社会構造だからであると言われている。そのため、先祖代々伝わる名字は必要とされてこなかった。

2. ミャンマー人の名前のつけ方

さて、このミャンマー人の名前であるが、名前に複数の音節（2～4が多い）を使い、好ましい意味を持つ言葉を組み合わせることが特徴である。

例えば、最も有名なミャンマー人である「アウンサンスーチー」氏であるが、この名前は「アウン サン スー チー」の4音節からなり、このうち、「アウン サン」は父の名前から、スーは祖母の名前、チーは母の名前からつけられており、両親の名前の一部を組み合わせている。

また、父親の「アウン サン」という名前であるが、「アウン」には、「勝利」、「サン」には、「貴重な」、「特別な」という意味があり、生まれながらにして「ビルマ建国の父」にふさわしい名前がつけられていたと言える。

3. 八曜日と支配星

一般的な伝統的な名前の付け方としては、最初の音節に、「支配星」に関連した名前を付けることが多く、この支配星は生まれた曜日と深く関連している。

ミャンマーの暦では、水曜日は午前と午後に分かれており、八つの曜日からなる。これは、古くから伝わる占星術の一種で、各曜日にはそれぞれの支配星が存在し、その支配星には守護動物、方位が関連づけられている。そして、その曜日に生まれた人間の人生や基本的性質に影響を及ぼすとされている。

この曜日と名前、支配星の関係を整理したものを表6に示す。

（注）アウン サン将軍は、1915年年2月13日の土曜日生まれであるが、支配星の関係からは日曜日生まれの人につけられるアウンという名目がつけられている。これは、支配星よりも「好ましい意味を持つ言葉を組み合わせる」という方法を重視してつけられたものと思われる。

表6 曜日と名前、支配星の関係

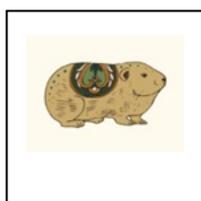
曜日		支配星	名前の頭文字	例	性格・人生の傾向(一例)	方角	守護動物
日曜日	တနင်္ဂနွေနေ့ t nain g nway nae	太陽 နေ ne	ア行 (母音) a, I, u, e, o	Aung, Ei, Oo, Aye, Ohnmar 等	行動力がある。明るく前向きで、人を惹きつける魅力にあふれている。リーダー的ポジションに就くことが多い	北東	ガルーダ (注2)
月曜日	တနင်္လာနေ့ tanainlarnaе	月 လ 1(ラ)	カ行、ガ行 k, kh, ch, ga, n g	Kyi, Kyaw , Khin, Chit 等	感受性が強い。自立心旺盛で忍耐強い。思慮深く流行に敏感な面もある。バイタリティに溢れ活動的	東	トラ
火曜日	အင်္ဂါနေ့ aain gar nae	火星 အင်္ဂါဂြိုဟ် aain gar gyaoh	サ行、ザ行、 ニヤ行 s, hs, z, ny	Soe, Sein, Swe , Zin, Zaw, Nyo 等	勇敢。行動力があり、権力やカリスマ性を持つ。勇敢で強い意志があるが、少々頑固な一面も	南東	ライオン
水曜日の午前	ဗုဒ္ဓဟူးနေ့ buddhahuuna	水星 မာကျူဂြိုဟ် markyauure	ラ行、ワ行 l, w	Lwin, Lin, Lay , Win, Wai, War 等	知的。感性豊かで好奇心が非常に強い。刺激的なことや新しいことに夢中になりやすく、知識欲が旺盛。	南	牙のある象
水曜日の午後		ラーフ ရာဟု Rahu (注1)	ヤ行、ヤ(ラ) 行 y, r	Yu, Yun , Shwe, Yee , Ye, Yan 等	冷静。心根が優しく聡明。平和主義で強い感受性を持つが、空想的で気分れ、嫉妬深い一面もある	北西	牙のない象
木曜日	ကြာသပတေးနေ့ kyaarsapatayy nae	木星 ကြာသပတေးဂြိုဟ် kyaarsapatayy gyaoh	バ行、バ行、 マ行 p, ph, b, m	Papa, Phyu, Ba nya, Min , Myo , Moe 等	温厚。頭脳明晰な理論家タイプ。合理的で知的だが、賭け事を好む傾向がある。	西	ネズミ
金曜日	သောကြာနေ့ sawkyarnaе	金星 ဗီးနပ်စ် beenautit	タ行、ハ行 th, h	Than, Thein, T hapyae, Thiha , Hein 等	献身的。平和を好み、人道的で穏健。愛情豊かで献身的な恋愛をする。金銭感覚に長けている	北	ူꨀ : ウー (注3)
土曜日	စနေနေ့ hcanaynae	土星 စနေဂြိုဟ် hc nay gyaoh	タ行、ダ行、 ナ行 t, ht, d, n	Tin, Htun, Hta ik, Htut , Htay, Nilar, Naing, Hnin , 等	まじめ。思慮深く、物静か。着実に働きお金を貯めるタイプで、金銭面での苦勞が少ない。	南西	ナーガ 龍・蛇神 (注4)

(注1) ラーフ：インド占星術に登場する影の惑星（月の昇交点にあたる架空の惑星）。仏教説話にも登場し、日食や月食を引き起こす存在とされている。



(注2) ガルーダ

インド神話の神鳥で、人間の体と鷲の頭、翼を持ち、毒蛇やナーガ（竜族）を退治する聖鳥。仏教では「迦楼羅天（かるらてん）」と呼ばれ、守護神として信仰されている。インドネシアの国営航空会社の名前ともなっている。



(注3) ဝူꨀ (ウー)

マーモット、モルモット又はモグラ等と訳されるギミピックという耳の小さなウサギのような動物



(注4) ナーガ

インド神話に起源を持つ蛇（特にコブラ）の神であり、仏教に取り入れられて仏法の守護神となった存在。東南アジアの多くの国で信仰されており、巨大な蛇や龍のような姿で描かれる。

しかしながら、このような伝統的な考え方は、若い世代では次第に薄れ、あまりこだわりがなくなっているようである。

【付録4】50音表と梵字、デーヴァナーガリー文字（ネパール語）の関係

50音表は、仏教の梵字の字母表の配列が、50音図の配列の基礎となったという関係がある。50音表の「あかさたなはまやらわ」という行の並び順、また、「あいうえお」という母音の並び順も、梵語の文字配列が基になっている。

梵字は、天平年間（729年-749年）に、日本に仏教の経典等として伝わった。江戸時代になって、真言僧の契沖が、この梵字の配列を参考に「50音表」を考案し、これが今日の50音表の基礎となっている。このように、50音表は、梵語の文字配列の規則を日本の発音に合わせて体系化したものであり、50音表と梵字の間には深い関わりがある。

一方、インドでは、7世紀頃、古代サンスクリット語を表わす文字がナーガリー文字に発達し、10世紀には現在のデーヴァナーガリー文字（ネパール語の表記に使用される文字）となった。表8に、梵字による50音表を示す。

表8 梵字（古代サンスクリット語表記文字）による表記

清音					濁音				
あ	い	う	え	お					
𑖀	𑖄	𑖅	𑖆	𑖇					
か	き	く	け	こ	𑖁	𑖂	𑖃	𑖄	𑖅
𑖆	𑖇	𑖈	𑖉	𑖊	𑖁	𑖂	𑖃	𑖄	𑖅
さ	し	す	せ	そ	𑖆	𑖇	𑖈	𑖉	𑖊
𑖋	𑖌	𑖍	𑖎	𑖏	𑖆	𑖇	𑖈	𑖉	𑖊
た	ち	つ	て	と	𑖋	𑖌	𑖍	𑖎	𑖏
𑖑	𑖒	𑖓	𑖔	𑖕	𑖋	𑖌	𑖍	𑖎	𑖏
な	に	ぬ	ね	の					
𑖗	𑖘	𑖙	𑖚	𑖛					
は	ひ	ふ	へ	ほ	𑖗	𑖘	𑖙	𑖚	𑖛
𑖜	𑖝	𑖞	𑖟	𑖠	𑖗	𑖘	𑖙	𑖚	𑖛
ま	み	む	め	も	𑖜	𑖝	𑖞	𑖟	𑖠
𑖡	𑖢	𑖣	𑖤	𑖥	𑖜	𑖝	𑖞	𑖟	𑖠
や(いあ)		ゆ(いう)		よ(いお)					
𑖧		𑖨		𑖩					
ら	り	る	れ	ろ					
𑖫	𑖬	𑖭	𑖮	𑖯					
わ(うあ)				を					
𑖱				𑖲					
ん(n)									
ン									

また、現在、日本では、干支ごとに守護梵字と守護仏が設定されており、文字自体を仏法の神聖なものとする考え方がある。表8に、干支と守護梵字、守護仏の関係を示す。

表8 干支と守護梵字、守護仏

干支	守護梵字		守護仏	干支	守護梵字		守護仏
子(ねずみ)		キリーク	千手観世音菩薩	午(うま)		サク	勢至菩薩
丑(うし)		タラーク	虚空蔵菩薩	未(ひつじ)		バン	大日如来
寅(とら)				申(さる)			
卯(うさぎ)		マン	文殊菩薩	酉(とり)		カーン	不動明王
辰(たつ)		アン	普賢菩薩	戌(いぬ)		キリーク	阿弥陀如来
巳(へび)				亥(いのしし)			

私の知人で、この表にある梵字をお守りとして携帯に貼っている人がいる。また、今年の正月、豊川稲荷の境内の露店で、守護仏のお守りが販売されていたので、私自身の守護仏である「阿弥陀如来」を購入しようとしたが、すでに売り切れて購入できなかった。普段はあまり意識することのない梵字、守護仏であるが、日本文化の中に静かに浸透しているようである。

【付録5】 ヒエログリフ（古代エジプト象形文字）による表記

ヒエログリフは、古代エジプトで使われた象形文字（神聖文字）である。古代エジプト文字には、ヒエログリフの他に、ヒエラティック（神官文字）、デモティック（ヒエラティックを崩した簡略文字）がある。ヒエログリフは、エジプトの遺跡に多く記され、19世紀、フランスのシャンポリオンのロゼッタ・ストーン解読以降、読むことが可能になった。ヒエログリフが使われたのは、エジプト原始王朝時代以前の紀元前4000年ごろから紀元前3000年頃とされ、その後、古代ローマ帝国統治下において徐々にギリシア文字が浸透、4世紀を境にして使用されなくなっていった。ヒエログリフは、単一の文字が、その意味や音を表すだけでなく、文脈によって複数の役割を果たす多機能な文字体系（表語文字に分類）であった。

表9 ヒエログリフ（古代エジプト象形文字）による表記

清音						濁音					
	あ	い	う	え	お						
k	か	き	く	け	こ	(g)	が	ぎ	ぐ	げ	ご
s	さ	し	ず	せ	そ	(z)	ざ	じ	ず	ぜ	ぞ
		(x)						(j)			
(t)	た	ち	つ	て	と	(d)	だ	ぢ	つ	で	ど
(c)		(c)						(j)			
(n)	な	に	ぬ	ね	の						
h	は	ひ	ふ	へ	ほ	(b)	ば	び	ぶ	べ	ぼ
(f)			(f)								
m	ま	み	む	め	も	(p)	ぱ	ぴ	ぷ	ぺ	ぽ
	や(いあ)		ゆ(いう)		よ(いお)						
r	ら	り	る	れ	ろ						
	わ(うあ)				を						
	ん(n)										